

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

( 第 4 号 )



1 平成3年12月18日（水曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 28名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稲 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	24 番 石井 輝久
25 番 流山源次郎	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総 務 部 長 二通 英雄	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 脇田 元始	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 福原 修

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 加藤 浩一	

## 1 議事日程（第4号）

平成3年12月18日午前10時開議

- |      |   |        |                             |
|------|---|--------|-----------------------------|
| 日程第1 | { | 議案第46号 | 館山市地域福祉基金条例の制定について          |
|      |   | 議案第47号 | 字の区域及び名称の変更について             |
|      |   | 議案第48号 | 字の区域及び名称の変更について             |
|      |   | 議案第49号 | 南房総広域水道企業団規約の変更に関する協議について   |
| 日程第2 | { | 議案第50号 | 平成3年度館山市一般会計補正予算（第5号）       |
|      |   | 議案第51号 | 平成3年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号） |
|      |   | 議案第52号 | 平成3年度館山市水道事業特別会計補正予算（第2号）   |
|      |   | 議案第53号 | 平成3年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第2号） |
| 日程第3 | { | 請願第5号  | 義務教育費国庫負担制度堅持に関する請願書        |
|      |   | 請願第6号  | 第6次定数改善計画の早期策定に関する請願書       |

開 議 午前10時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数28名、これより第4回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第46号乃至議案第49号の各議案を一括して議題といたします。

### 質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

(21番議員神田守隆君登壇)

◎21番(神田守隆君) 議案の第46号、館山市地域福祉基金条例についてお尋ねをいたします。

説明資料の8ページをお開きください。高齢者の保健福祉に関する民間活動の活発化を図り、高齢者の保健福祉を増進するために設置する基金とのことで、その基金額は7,000万円とされております。また、この基金は地方交付税の基準財政需要額の中で算定されて措置されたものとのことであります。

そこでお尋ねをいたします点は、昨年12月の市議会で福祉活動の促進、快適な生活環境形成等の社会福祉事業を推進するためということで館山市福祉基金条例を制定し、昨年度で6,745万4,000円をこの基金に繰り入れております。また、館山市社会福祉協議会においては、市はこれとは別に基金への拠出をして、これとは別の基金の積み立てをしてまいりました。それぞれが福祉活動のためということで目的が似ているわけですが、またそれぞれにその目的もあるものと思います。この際これらの基金について、それぞれどのような目的でどのような違いがあるのか、それぞれの基金の残高等を御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、この基金の運用益から民間における高齢者への一定の福祉事業を実施しようとするものでありますが、私は高齢者福祉については基本的には市なり県なりの公共機関が責任を負うというのが基本だと思うのであります。まだそれも十分に行われていない今の段階で福祉は民間にと安易に責任転嫁があってはならないと思うのであります。この基金の活用方法について、民間活動の活発化を図るとしてありますが、具体的にはどのようなことが対象になると考えられておるのか。7,000万円の基金の運用益ということになりますから、ざっと5%といたしましても年間350万円ほどにはなろうかと思えます。この支出先となる民間活動団体とは具体的にはどのようなものだと考えられておるのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長(福原 勤君) 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第46号の第1点目、館山市福祉基金条例等との違いについての御質問でございますが、まず平成2年度に設置された館山市福祉基金につきましては、福祉活動の促進、快適な生活環境の形成等の社会福祉事業を促進するための基金でございます。これらの事業を行う場合には、この基金を取り崩し、その財源に充てるものでございます。

次に、今回お願いいたします館山市地域福祉基金でございますが、高齢者保健福祉施策を促進し、民間福祉活動の活発化を図ろうとするもので、この基金から生ずる運用益によって助成しようとするものでございます。

次に、館山市社会福祉協議会で実施しております館山市社会福祉振興基金でございますが、社会福祉の推進に伴う安定的な自主財源を確保するために設置されました基金でございます。

次に、第2点目の今回の館山市地域福祉基金の活用方法についての御質問でございますが、高齢化社会に備えて在宅福祉の向上、健康づくり、ボランティア活動の活発化を図るために、地域の実情に応じて館山市社会福祉協議会等が行う事業に対し助成しようとするものでございます。

以上でございます。

◎議長(福原 勤君) 神田守隆君。

◎21番(神田守隆君) 館山市の福祉基金あるいは社会福祉協議会の福祉振興基金との違いという点で、御説明で一応了解をいたします。

次に、この運用益から民間活動を助成するんだということで、今の御説明ですと、民間団体というのは社会福祉協議会等が行う民間事業ということで、等があるんですけれども、具体的な話は今どんなことを考えられているかという話をもう少しお聞きしたいなと思うんですけれども、民間が行う福祉事業というと、まず社会福祉協議会、これが頭にくるのというのは、浮かぶというのは私もそうなんですけれども、例えば高齢者の方の働く会を昨年発足させて、こうした団体の活動であるとか、あるいは館山市の関係しております老人ホーム等も社会福祉法人ということで経営もされておることだ

と、民間団体の福祉活動への助成というのは、等という言葉の中に含まれているのは、そういうものも含めてこの果実の運用益の支出先になるというふうなもっと広いものなのか、それとも市としては一応社会福祉協議会という絞った中で今後の事業の展開を考えておられるのか、その辺をもう少し御説明がいただけたらと。まだ今の段階ではっきりしなければはっきりしないということでも結構ですが、御説明をいただきたい。

それから、当然市として民間の分野で行う福祉事業ということと、それから市が責任を持って行う福祉の事業というのは、これはやはりきちんとわきまえなきゃならないことだと思うんです。やはり基本的な問題としては、高齢者福祉というのは市が直接実施する高齢者福祉事業、これがやはり骨格といますか、骨組みにならなきゃならないものだろう。しかも、その分野がまだまだこれからうんとやっていかなきゃならない分野で、デイ・サービスもいよいよ緒につくかなという段階のところでもありますから、まだまだこれからだ。来年度あるいは再来年度ぐらいにいわゆる例の高齢者の健康福祉10カ年計画ですか、これの作成、これがやっぱり一つの大きな市の高齢者福祉の基本路線といますか、こういうものになろうかと思うんです。そういうものとの関連もこの民間団体での活動の位置づけという点ではきちんと交通整理をしておかないとならないんじゃないかなという気もするんです。そういう点から、市の——いわゆるゴールドプランとか、いろんな名称で呼ばれてきました高齢者保健福祉10カ年計画、これの作成の段取り、こういったものがどういうふうになるのか、その点についての御説明もあわせていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、地域福祉基金の使い先といますか、福祉協議会等の問題でございますけれども、御承知のとおりこの地域福祉基金というのは福祉の——1億円の創生資金、あの着想に基づいて、全国3,300の自治体に交付税で措置されたものでございます。そういうことで、基本的には民間活力の増高、それを目途としてやるんですが、その方法につきましては各団体の創意工夫によるということになるわけでございます。したが

まして、うちの方の社会福祉協議会を通じてという基本的な考え方もあるわけですが、一方いわゆる制度ボランティア——いわゆる民生児童委員協議会とか老人クラブとかただいまお話のありました働く会、そういうようなところの事業に着目して、いわゆる先導的な事業に補助していきたいというふうなことを考えております。

第2点目の民間と市の線引きといいますか、どこにそれらを置くかということでございますけれども、民間活力でやる仕事と市でやる仕事、線引きが明確にできるかどうか非常に難しいところでございますけれども、あくまでも民間が自主的に考え、また実施できる仕事、そうでない公共的なものを市で行うというような考え方を持っております。したがって、ここからは今後の両者の話し合いといいますか、協議の中で出てくるのではないかとというふうに考えております。

それから、市町村の保健福祉計画でございますけれども、御承知のとおり法律的には平成5年の4月1日までにつくるということになっておりますけれども、現在国でこれについてのガイドラインをつくりまして、それが都道府県の保健福祉計画に関連して市町村もつくるといような段取りになっているわけでございます。そういうことで、原則的には平成5年までにつくりますけれども、若干そのガイドラインによりますと、1年間ぐらいの猶予があるんじゃないかというようなことが考えられているようでございます。そういうことで、国の指導、また県の計画、そういうものをにらみながら館山市でもつくってきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうすると、これからの高齢者福祉という点で、保健福祉10カ年計画は法律的には平成5年の4月1日といいますか、平成4年度で——というのは来年度でつくらなければいけないとなっているけれども、都道府県レベルの制定を含めて市町村計画に進むので、どうも1年おくれるのではないかとすることは、平成6年の4月1日というふうに市では考えている、そういう理解を今の答弁だとするんですけれども、この保健福祉



の問題というのは、県のあれを待ってというのもわからないわけじゃないんですけれども、同時に館山市が大変この問題では先進的な——先進的と言う言葉はおかしいですけれども、高齢化が進んでいる県内でも最も進んでいる市のうちのひとつということでありますから、むしろ県がつくる高齢者福祉の計画の——県北の方がどちらかといえば少ないですから、人口比が、県南が人口比が非常に多いという中では、県のあれを待ってという姿勢だけではなくて、むしろ積極的に来年度の中で県が県の計画を決めるに当たっては、その段階から積極的に館山市がむしろ先導的にこういう施策だとかこういう問題とかということでリードしていく——そこまで言葉が言えるかどうかわかりませんが、それくらいのことが必要なんじゃないかなと思うんです。だから、県を待ってという、そういう御答弁の気持ちもわかりますけれども、その辺についてお考えはございませんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国のガイドライン等によりますと、いわゆる市町村の計画と都道府県の計画、この関係でございますけれども、やはり都道府県の計画は市町村の第2次医療圏を基本として計画を策定せよというような形になっているわけでございます。ですから、そこらの兼ね合いがございますので、確かに議員さんのおっしゃるように先導的——また今までの館山市が保健、福祉分野で先導的な実績がございます。ただ、そこらの兼ね合いがございますので、突出してといいますか、早目にといいますか、そこらの部分は今後県の担当等ともよく協議して実施していきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） まず最初に——通告順に質問したいと思うんですけれども、1番目は議案第46号の1条についてでございますけれども、この件につきましてはただいま神田議員が質問されまして、おおむね趣旨が同じなものですから重複しておりますので、その中から特に補足的な質問をいた

したいというふうに思うわけでございますけれども、ただいまの質疑の中におきまして、民間団体の活動については福祉協議会を通じてということが言われておったわけでございますけれども、このほかに民間団体というものは館山市の場合に考えられないかどうか、この点についてお伺いしたいわけでございます。

私はたまたま11月の14日に浜松市で開催されました全国の福祉団体のセミナーに参加いたしまして、その中でもって東京都の委員をやっております方が、高齢者のボランティア活動ということで、特に在宅ケアの奉仕活動について全国的な活動をしているということの体験発表あったわけです。その中でたまたま、今法律が通過するとこの問題が市町村に行きますので、ひとつその節はよろしく願いいたしたい、こういうことを言っていまして、そこが大臣等の折衝をかなり進めて、そのための補助金制度がようやく実現しましたということを言っていました、これはそれなりのことであろうと思います。

一つの柱に、私は在宅老人の ― 今全国各地に非常に多くあるボランティアによる在宅ケアというんですか、奉仕、これに対する活動について幾らでもいいから補助金を出してもらいたいという非常に大きな運動と陳情、そういう中でじゃそれに対してそういう制度を設けようというのが今回のこの法律の趣旨になったということを聞きました。これは法律ですから、一つの運動の段階としてそういうものがあったということは事実でございまして、したがってその団体等を通じて、多くのそういったボランティアがいるので、そういう点に対して国や市町村ができなければ民間団体に対して金ぐらい出せという勢いで、それがやはり骨子のこの法案じゃないかというふうに思われているわけでございますけれども、館山市においてはそういう団体なりそういう実績なり、そういうものが具体的にあるのかどうか。この法律の背景にはそういうものが私はあったと思うんです。その点では、館山市はないとすると、非常にそれは立ちおくれて、そして法律が決まったから、それに補助金が出てきたから、追っかけて条例をつくって、追っかけて福祉協議会に一括して ― 福祉協議会は幼児から青年からすべての福祉、オールマ

イティーですから、その中に老人の問題も一部あるということでございますから、そこへ任せておけば無難じゃないかということで、これからさあどうしようかなということじゃないか。

今神田議員の質疑の中で見ていくと、何かここ、ここということじゃなくて、福祉協議会に委託する。そして、それが福祉団体等によって、そういうものにやってこれから活動云々ということでございますけども、そこら辺はちょっと——この基金条例をつくるについて、この法律の趣旨と館山市の実態、そしてこれを設置——法律案を設置するに当たって、我々がどのような状況で理解したらいいかということをやはり知りたい、こういうふうに思うわけですから、そこで通告のときにもしておりましたように、館山市でもって高齢者の保健福祉を増進している具体的な団体、また具体的なボランティアの数、そういうものは把握しているのかどうなのか、そしてそれらの人たちがどのぐらいの量のボランティアの提供をして、そしてどのぐらいの自己負担なりそういうものをしているか、そういう点についてわかったら教えていただきたい。ただ単に福祉協議会という形では、これはもう全くわかりませんで、この趣旨はそのものに対してやるんじゃないか。全国のその団体の多くの人が出ていまして、意見の中で、もうスズメの涙ぐらいじゃしょうがないけども、ないよりあった方がいいということで、この全体の額のことについて承知しておったものですから、そこら辺が館山市がこの条例——国でやってきたのを受けて、ハトに豆鉄砲撃ったように慌ててつくって、これから何しましょうかという状況ではちょっと情けないんじゃないかという感じがしますから、その点についてどうなのかお伺いしたい。

それからもう一つは、まだそういった面で、基準なり運用益によって出た——300万から400万ぐらいが出ると思うんですけども、これに対して市の方からある程度の金をつけて——500万、600万になるかわかりませんけれども、それらの額を支給をするに当たって、この福祉協議会一本にやって、福祉協議会の中でもっていろいろ検討して交付要綱というのは決めていくものなのか。本来であれば、実際に老人の在宅福祉に対してやって労苦を提供しているもの、そんなものがいっぱいあるからそれに対してやろうというも

のが趣旨なんですけど、館山市がそういうものがないとすると、実際には具体的には高齢者福祉ですから、かなり広い範囲にわたって交付ができると思うんですけども、それではちょっと私はこの趣旨からいって穏当じゃないんじゃないか。やはり高齢者の在宅ケアに対するところの民間のボランティア活動そのものに対するところの一部の補助、こういうことで明記されていかなきゃならないんじゃないかというふうに思うわけです、この立法の趣旨からいって。そこら辺については — 条例をつくるわけですから、どの程度をお考えになっておるのか。先ほどの論議の中では随分抽象的で、これからそれらは福祉協議会等の協議を経てということですから、まさにこういうことを泥縄式と言うんじゃないかというふうに思うんですけども、そういう形でもってこの高齢者福祉の基金が議会後スタートするということについては忍びがたいので、そこら辺について率直な御答弁をいただきたいというふうに思います。

2番目につきましては、議案47号でございます。それから48号でございますけれども、これは新しい字名の決定でございますけれども、これが西川名と布沼の2カ所になるわけでございますけれども、前に — 数年前かと思えますけれども、予算委員会ですか、決算委員会の中でもってちょっと質問したことがあるわけでございますけれども、この字名が消えていくということについては、いろんな文化財の立場、それから歴史的な立場、そういう面からいって慎重を期さなきゃならないというのが — そういった文化団体なり、そういうところがあるわけでございます。具体的には、この場合西川名の黒部という地名に宮ノ下、石畑というところが消えて合併する、こういうことになるわけでございます。布沼の原下というところに亀山前と原という字の一部がなくなってこういう地名になるということですが、この — 西川名の黒部、それから布沼の原下ということになるのは、西川名の宮ノ下がなぜ宮ノ下として選ばれなかったのか、石畑となったのか、この黒部にしなけりゃならないそういった根拠なり、そういう経緯についてどういう経緯をたどったのか、どういう必要性があってこういう形になったのか、この点について — 同じく布沼についても同様でございますから、その経過につい

て、ひとつそういった歴史的な経過、文化財的な経過、そういうもの等をあわせて、どのような形でもってこういうことに統合されて決定されたかということについて御説明いただきたいと思います。

それから、3番目が議案第49号でございます。議案第49号の第10条の2項でございます。ここに監査委員のことでございますけれども、監査委員は「事業の経営管理について専門の知識又は経験を有する者」ということになっておるわけでございますけれども、これが訂正されて「人格が高潔で、事業の経営管理に関し優れた識見を有する者」というふうになるわけでございます。これは私は重要なことだと思います。最初の人格が高潔でということは、これは当然のことでもって、こんなこと入れる、入れないは別として、前になかったから入れるということについては、これは一つの形容詞のようなものだろうと思います。問題は専門的知識と経験を有するという監査委員を、ただ単にすぐれた見識を持つ——識見を持つということになりますと、かなりこれはもうダウンしちゃうんじゃないかと。だれでもいいということになるんじゃないか。専門的知識持っている人と、すぐれた見識を持っている人というのは、これはもう言葉的にも——言葉の語源からいっても本質的に違うわけでございます。

となると、南房広域事業というのは15市町村ですか、集まって、館山でも総体的には200億の金を負担しなきゃならないと。総経費というのは物すごい額のもの、これを監査していくのに、まして寄り合い世帯の組合のこの監査委員の資格がダウンするということについては考えられなくて、今いろんなリクルートとか何か騒がれておりますけど、これは全部監査制度が悪いと、監査を強化していこうと。公認会計士なり特別なものをやっていかないと、そういった金融機関なり金を扱うところでは大変だと。莫大な金を町村から寄り合いで出していく、ここのものが私は少なくとも専門的に知識と経験を持つというのは最低条件じゃないかと。さらには国家の資格を持っているぐらいのことを入れてくれるんだったら別ですけども、これは抜きにしちゃって今度は識見のある人に変わっちゃうという、だれでもいいということで、私も識見のある中へ入るかどうかわかりませんが、私でもなれるんじ

ゃないかというような感じがしてきますと、これはちょっと法的にはおかしいんじゃないかと。私は逆に出てくるんじゃないかと思って、識見ある者を選ぶというものは、今度は専門的経験のある者でなきゃだめだと、こう出てくるのがあれだと思ったら、それ逆になるということが、この土壇場で正式に組合が発足しようという段階でもって急遽変えなきゃならないということについて、どのように理解されておるのか、ここら辺の経過についてお伺いしたい。

その上に附則の第2に、現に在職する監査委員は、その任期が満了するまでの間は、これに継続して就任できるということでございますから、私はひょっとすると今選ばれている監査委員——だれかわかりませんけども、庄司市長かだれかわかりませんけれども、監査委員が資格がないものですから、発足のときこれは専門的知識がないからぐあいが悪いということでもって、一ランクトーンを落として、そして施行規則というものをつくったんじゃないかと、こういうふうに誤解されるわけでございまして、現任の監査委員が専門的知識のない人、また専門的な経験を持たない人がなっているので、ここでもって組合発足を前にして現委員については残任期間できますよと、そしてこの法律はこの次になりますと、こういうこと施行しても抵触しないようにするためにとったんじゃないかというふうに、悪く考えればそういうふうになるわけでございます。

これは何か私は経過と内容わかりませんけども、一般的にこれを見ていくと随分おかしい訂正をするものだねと。なぜどんどん、どんどん変えなければいけない——現監査委員は私は立派な人だと思うけれども、その人を何か軽視するような格好で、見識があればいいということになって、発足前に変えて、それで残任期間は有効ですよというような形で追認するものを、あえてまたここで出てくるということについて非常に疑問を感じるわけでございますけども、この点についてひとついろいろな事情と経過があると思いますから、その点についてわかりやすく教えていただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第46号の第1条についての御質問でございますが、この基金の活用方法といたしましては、その運用益をもって、高齢化社会に備えて在宅福祉の向上、健康づくり、ボランティア活動等、地域の実情に応じて各種団体が行う事業に対し助成しようとするものでございます。

対象団体といたしましては、先ほど申し上げましたが、館山市社会福祉協議会等が想定されますが、交付の時期、方法等につきましては、事業計画、事業実績等に基づきましてこれから具体的に検討してまいりたいと考えております。

議案第47号、48号、新字名の決定の経緯についての御質問でございますが、第1点目の議案第47号字の区域及び名称の変更につきましては、事業主体、館山市西川名土地改良事業共同施行が平成元年度から実施されております花卉団地育成事業に伴うもので、事業実施区域内の字宮ノ下の一部及び石畑の一部を字黒部に変更するものでございます。

第2点目の議案第48号字の区域及び名称の変更につきましては、事業主体、館山市布沼土地改良区が平成2年度から実施しております団体営土地改良総合整備事業に伴うもので、事業実施区域内の字亀山前の一部及び亀山前原の一部を字原下に変更するものでございます。

次に、議案第49号南房総広域水道企業団規約の変更に関する監査委員の選任資格についての御質問でございますが、地方自治法の改正によりまして、監査委員の監査対象が従来の財務監査を原則とすることに加え、一般行政監査まで拡大されたことに伴う監査委員の選任資格の変更でございます。

地方公営企業体も同様の改正が行われまして、今回南房総広域水道企業団においても関係市町村と協議し、関係する規約を変更しようとするものでございます。

また、この改正による経過措置といたしましては、現に在職する監査委員の選任につきましては、任期が満了するまでの間、改正後の規定により選任された監査委員とみなすものでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） わかりました。

それで、最初の46号でございますけれども、ここで今の答弁になってまいりますと、団体に対して交付ということですが、館山市の場合には団体というふうにするのでしょうか。この趣旨その他は団体ということではない。これはレクチャーのときにこの団体というのはどこだということで、いや団体じゃなくて民間ということだから、個人その他も対象になる幅の広いものだということを言われておりました。現実的にはこうした高齢者に対するところのボランティアは必ずしも団体じゃなくて、二、三のグループなり、個人的にもやっている人がいるわけでございます。そういう人も対象にするんだということが言われているわけでございまして、そこら辺は館山の場合には、今市長の答弁——先ほどの部長の答弁は、福祉協議会というのが福祉協議会等というふうに再質問の中でなってきた、そして市長の答弁になると、今度は団体というふうに繰り上げてきましたけれども、これは私は前の事務局との話し合いの中でも、どこの団体だと言ったら、いや団体ということには特定されておりません、こう言われておって、そうだろう。それじゃ、どこにこれから行ってそういったものの——全国的に活躍している——今館山市でも幾つかやっていると思います。ボランティアとして——個人でやってもボランティアはボランティアなんです。ボランティアというのはむしろ個人が近所の人だとか、そういう人についていろいろ面倒を見てやってやる、自分の生活の暇を見てなり犠牲にしてやっている、そういうものに対してやるということですから、その把握と実態の中でやるんじゃないかと思うわけでございますけれども、市長の答弁からいくと、団体ということはこの条例の中から出てくるのかどうなのか。この法律なり何かの設置のときにはそういう論議がされて、個々のボランティア活動も対象としていくということが何か強調されておったように伺っておるわけでございますけれども、事務サイドとの話し合いのときはそういう話し合いでもありまして、事務サイドから出てきまして、逆に私の方が団体とは限りませんよということでも



って、ああそうですかというような取引もあったんですけども、市長の答弁になってくると、団体ということになってくると、かなりその見解が違うんじゃないかと思うんですけど、そこら辺の統一見解をひとつきちんと出していただきたいというふうに思います。

それから、2番目の字の改称について、編成については、私は前に特別委員会の中でもって半澤市長に言ったんですけども、そのとき半澤市長も、今後はそういった面について十分配慮してやっていくようにいたしたいと思います。当然なことでございますということを言ったわけです。配慮するということとはどうかということは、どんな小さな字にしても、そこには非常に昔先祖伝来のいわれがあって字があるわけです。それを消すということは、小さいことについてもかなり大きな意味があると思います。今必要ないから消しちゃっていいというものでもないと思うんじゃないか。そういう面については、やはり館山市の文化財審議委員なり、専門的な人のある程度の意見を聞いて、いやこれはこういうことによって大してそういう面については意味がないというふうな形の意見なり聞いてやるというふうにしていかなきゃいけないんじゃないか。小さいとか大きいということじゃなくて、そういう点が——大きい字の変更なんかのときには、そういった審議会でもってこれは歴史的にどうだとか何とかというようなことを審議されて、残すべきだとか云々ということになりますけど、耕地整理の中でもその点については市の専門的な人の意見を聞くということをした方がいいんじゃないかということだったんですけど、そういう点については考慮されなかったのかどうなのか。今後は私はそれはもうどんな小さいところにしても、部落名、字名が消えるときには消していいかということについて専門的なそういった人の意見を聞いて実施すべきだというふうに思うんですけど、そういうお考えあるのかないのか、また改めてここで聞きたいと思います。

それから、3番目の監査委員の問題でございますけども、今言った自治法の改正に伴ってそうだとということでございますけども、これは自治法の改正でも監査委員の選任資格等については、別に国の方から示された準則案どおりでなくても、監査はうちの方は厳重にしなければならぬから、従来どおり

専門的な知識を持った人でやっていくんだということでもって違反することは、法律じゃないんですからないんじゃないかと。むしろこういう時代にこそ、やはり監査制度というのはびしっとしておかなければいけない。最近、館山市でも私たちの身の回りでもってえらい監査ミスから、新聞紙上をにぎわして県会議員が失格するというような状況が出て、これも監査制度が不十分だというふうなことを指摘されておりました、我々としてはそれで痛い目を食っているわけですから、監査については館山はうるさいよというぐらいになって、これは市長としてもそういうところでもって後退するようなものじゃなくて、監査というのはもっと強化していった残していくべきじゃないかと。そのために館山市も将来 200億からの金を分担するんだからというような形はできないものかどうなのか、そこら辺の見解を、一つはできるかできないかということ。自治法に出てきたからそれに従わなければ絶対的にだめなんだと、国の補助金も打ち切られるというような性質のものなのか。もう一つは、市長としてはそういうことだったら、ある程度監査の強化ということについては、従来のままでいいんじゃないかと、後退するようなことについてはということで、館山として意見は述べられるのか述べられないのか、この点について御質問申し上げます。

以上であります。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず最初の地域福祉基金の団体等の場合に個人が入るかというような御質問でございますが、御承知のとおりいわゆる民間ボランティアの場合には、館山市では福祉協議会でまとめて館山市ボランティア協議会というものをつくっているわけでございます。その中身が6団体——湊川の会、麦の会、給食サービス、新生、カーボランティア、おもちゃ図書館というような形で入っているわけでございます。でございますので、個人のボランティアにこの地域福祉基金の補助ができるかということでございますけれども、そういう方々もいらっしゃると思いますけれども、現在のところは福祉協議会で発掘して、まとめてそこへ加入していただいているというようなことでございます。

また一方、この趣旨が国から示された中で、いわゆるボランティア活動の活発化の中にボランティア団体の資材費や啓発費等の活動費、それからもう一つはボランティア団体のネットワーク化のための事業、それからもう一つはボランティアに対する研修、講習、それからもう一つがボランティア基金に対する出捐または助成というようなことが示されております。そういうことで、館山市の地域福祉基金の具体的な補助についてはこういうものを踏まえまして決めていきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 議案第47号、48号の件でございます。

これまず47号でございますが、それぞれ各事業主体において協議の上決まったわけでございますが、西川名におきましては地元の方で当字を一般的に黒部と、こんなふうに総称といいますか、していたという経緯の中で改良事業区域を黒部にしたい、こういうことでございます。

それから、もう一点の48号の方、布沼の関係でございますが、これは事業実施区域内の字の中で最も多い字である原下、これにした、こういうふうな経緯でございます。

なお、御提案の文化財云々、その地名の関係等の変更を安易にというふうなお言葉いただきましたんですが、またそういう状況の中では今後その辺も十分に考慮してまいりたい、こんなふうに考えます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） この自治法の改正に従わなければならないかということと、それから監査の強化の問題でございますが、今回の自治法の改正によりまして従わなければならないものと理解をしてございます。

それから、監査の強化でございますけども、従来の――市長が答弁いたしましたとおり、財務監査から行政監査に拡大をされたということで、この法律が施行されておるといように理解をしてございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) それじゃ、2点についてちょっと再質問をしたい  
と思います。

1つは第1点でございますけれども、福祉の面ですけれども、1つは今館山市には具体的に高齢者のそういったボランティア活動に対して補助金を出しておるのか出しておらないのか、その一部の足しとしてやるのかどうか。私はこれは — この前の全国のボランティアの会議に出てきた人は活発な地域だと思うので、例外かも知れませんが、それらの討議の内容から察すると、かなりのところでもって地方自治体等からそういったボランティアに対して既に補助金等ももらっておるということ、スズメの涙、これを増額してもらいたいということがベースになっておったように思います。それをもって厚生大臣だとか総理大臣に陳情して、ようやく国の方も腰を上げてくれて、スズメの涙のような制度化してくれる予算も何か大蔵省で折衝中だというようなことが言われておったんですけど、そういう面では館山市は今そういった高齢者の在宅ケアというんですか、これについて補助なりそういったものをやっておったのか、その上にやるものかやらないものか、この点について伺いたい。

それからもう一つは — これは質問ですからどうこうという意見じゃありませんけれども、どうしても市の方は団体に固執していくのか。そのボランティアというものは必ずしも団体に入んなくても — また入りづらい性格を私は持っていると思うんです、ボランティアという言葉と実態からいって。むしろその団体に入んなくてもやっているそういったグループなり個人の具体的な活動を評価する団体なり機関、そういうものからやっていかないと、これは福祉協議会だと大きいものやっています、いろんなものやっていますから、必ずしも有効的にいくかどうかという問題があるわけですので、そこら辺については — 団体ということに館山市はこれからやるということを言っておりましたけれども、固執していくのか。この法律の中にはその団体云々というのはなかったわけですが、個人というものは対象にならないのかどうなのか、この条例として。レクチャーのときには、私が団体と言ったら、いや団体だけじゃなくて個人もありますから、こういうふうに逆に言

われて、きょうになったら逆になっちゃったんですけれども、それはどうなのか、そういう道はあるのかどうなのか、その点についてお伺いしたいと思います。明確にしておいてもらいたい。

それから、字の問題ですけれども、同じような答弁が前回もやられたんです。検討していきましょう、考慮していきましょうということですけど、文化都市ですから、これはかなり問題になっているんです。私もいろんな金融関係の役員やっておりますけれども、いろんな宅地造成だとか何かしている場合に、文化財の調査して、非常にやかましいあれでもって、相当な金かけてやるようなことをやって、いや文化というものはこうしてやって守らなきゃならないんだなということでもってあるので、やっぱり地名のあれについては具体的にそういう機関なり専門家を委嘱して意見ぐらい聞くということ具体的にやっていったら、今のままだとまた同じことで繰り返されていくんじゃないか。文化都市館山ですから、地名を大事にする。今の人は昔知らないんですから、それがどうかということで、勢いでもってやられちゃう場合があるものですから、そこら辺のさしがねぐらいは文化都市として入れておくのも私はいいんじゃないかと思うんですけれども、そこら辺は変わらないのかどうなのか、その点について2点質問をいたしたい。

終わり。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、1点目のボランティア活動に対する市の助成でございますけれども、御承知のとおり市の方から社会福祉協議会の方に補助金を出しております。地域ぐるみ福祉活動費ということで、本年度は731万円ばかり出しております。そういう中でこのボランティア活動に対する助成を行っております。

それから、2点目の個人に対する地域福祉基金の補助でございますけれども、先ほど申し上げましたとおり、館山市におきましては福祉協議会で一応発掘して、まとめてといいますか、協議会に入っていただくといいますか、そこらで一つの団体としてお願いをしていきたいということでございます。ただ、これはまだまだ各団体と協議をしていかなければならない部分がある

りあるわけでございます。そういうことで、今後ボランティアグループとか社会福祉協議会とか、そういうところと十分に協議を進めてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 答えいたします。

ただいまのこの2件の件につきましてはいずれも土地の共同事業としてされたもので、全部ということじゃなくて、この一部が字の変更ということでございます。

なお、御参考に申し上げますと、自治法 260条ですか、これは管理運営を考えて名称を決定して市町村に届けなさい、その後議会の議決を経て県の方へということになるわけでございますが、いずれにいたしましても地元としての状況の中で今回の場合には決められたものでございます。しかしながら、知名度が非常に世間一般高いとか、文化財的な関係につながるとか、そういった関係が生じた場合におきましては、これはやはり先ほど申し上げましたように考慮ということでもってその時点で処理したい、こんなふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第46号乃至議案第49号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第50号乃至議案第53号の各議案を一括して議題といたします。

## 質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案の第50号、平成3年度館山市一般会計補正予算（第5号）についてお尋ねをいたします。

私の質問は、議案書の12ページをお開きいただきたいと思います。歳出の項で、市長交際費ということで50万円を増額するということですが、この市長交際費については半澤市長の時代から私もたびたび意見を申し述べてまいりましたが、大変節約に努めてまいりました。当初予算の中で既に50万円を計上してあるものであります。市長さんがかわられた途端に交際費をふやしたというのも見方によってはいろんなことも考えられます。やりくりではどうにもできない、どうしてもやむを得ない事情があったからこそ提案されたものと思いますので、なぜ50万円の補正なのか御説明をいただきたいと思うのであります。

また、この交際費については、補正である以上あくまでも臨時的な支出にかかわるものとすれば、新年度の市長交際費については例年どおりの550万円ということで考えてよいと理解していいのかお伺いいたします。

次に、14ページであります。清掃費の中で1,178万円、安房郡市広域市町村圏事務組合粗大ごみ処理費負担金、これについてお尋ねをいたします。説明書の方の17ページであります。補正予算主要事業説明書によりますと、鉄、アルミ等につきまして来年の1月から——新年からは売却どころか引取手数料を支払わなければならない、こういうことであります。1月から3月のわずか3カ月間の補正でおよそ1,200万円の補正でありますから、年間ではこのまま進めば5,000万円にもなろうかとする負担を丸々抱え込まなければならないという大変重大な問題かと思えます。昨今の新聞報道によりますと、この状況については——12月8日付の朝日新聞などではかなりこの実情

がリアルに報道されているわけでありますが、全国各地でこのような問題が出ています。安房郡市における状況はどのようなになっているのか、具体的に御説明を願いたいと思うのであります。

次に、この10月から再生資源利用促進法あるいは廃棄物処理法の一部改正、こうした法律上の改正、新設が行われました。従来のごみ対策が処理だけだった考え方から、いわゆるごみの減量やリサイクルをごみ対策の柱の一つに位置づけられ、不十分ながらも事業者責任、企業の責任も規定されました。しかし、まだ重大な問題点も残されているわけであります。例えば、厚生省の生活環境審議会の答申の中で提起をされておりました自動車の廃車や、あるいは大型家電などの適正処理困難物に関して企業に引き取り義務を負わせるということが、業界団体や通産省の抵抗で協力要請に後退をし、骨抜きにされたことでもあります。自動車業界にしましても、家電業界にいたしましても、トヨタや松下といった日本を代表するトップ企業を擁する業界であります。こうした業界こそが利益第一ではなく、環境に優しいことを企業存立の基本の理念にしてほしかったものだと思うのであります。

お尋ねをしたいわけでありますが、こうしたリサイクルに関する法律が整備されたそのやさきに全国の市町村などのリサイクル事業が困難に直面するというのも大変に皮肉なことであります。市はこのリサイクル法について今後のごみ行政の上でどのような意味があるとお受けとめになっているのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、18ページの諸支出金の中の土地開発基金費繰出金ということで、2億 1,464万 1,000円についてお尋ねをいたします。説明書の19ページによりますと、本年度普通交付税で措置された同額を基金に繰り出す、こうなっております。まず、本年度の地方交付税で措置された理由について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、この基金については昨年度の決算の数字ですと7億 7,500万余円の残高がございます。この2億余の新たな繰り入れで総額は10億円になるかと思うのでありますが、この具体的な活用についてお考えはありますか、あれば具体的に御説明をいただきたいと思うのであります。



以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

市長交際費の増についての御質問でございますが、館山市立第一中学校生徒の不慮の事故に対する見舞金、また各種団体が非常に活発でございまして、従前と比べると私に対する出席要求が多くありまして、事情の許す限り出席しております。このような特別な事情等もありますし、増額補正をお願いするわけでございます。

次に、第2点目、粗大ごみ処理費負担金についての御質問でございますが、御承知のように最近の景気の減速に伴う生産調整等により、鉄くずの売却価格の下落、加えて新たな処理費の問題等については全国的な問題となっております。安房郡市広域市町村圏事務組合の粗大ごみ処理事業に対しまして館山市も負担金を拠出してありますが、同様な事情により粗大ごみ処理事業費の増大に伴い、館山市分負担金の補正をお願いしようとするものでございます。

その内容といたしましては、粗大ごみ処理事業費のうち、歳入の減といたしまして、鉄、アルミの売却価格の下落により、有価物売上代が当初予算 1,187万円に対しまして830万円の減収見込みとなり、また歳出の増といたしまして、新たに鉄類引取手数料として780万円の費用が必要となったことに伴い、不足見込額の1,610万円のうち、館山市分として1,178万円を補正しようとするものでございます。

本年10月25日、資源の有効利用の確保を図るとともに、廃棄物発生の抑制及び環境の保全に資することを目的といたしました再生資源の利用の促進に関する法律が施行されましたが、鉄くずはスチール缶を除き指定製品から除かれております。このため、現在鉄くず価格の暴落により、各自治体で処理対策に苦慮しているところであります。電炉メーカーを含む製鉄会社に一定量の鉄の再生を義務づけるなど、再資源化のシステム全体を見直さなければならない問題であり、国、県等へ要望してまいりたいと考えております。

次に、第3点目、土地開発基金繰出金についての御質問でございますが、今回の繰出金2億1,464万円につきましては平成3年度の普通交付税で財源措置されたもので、その趣旨は、近年事業用地の取得が困難となっている中で、地方公共団体は計画的な公共投資を実施するため、土地基本法及びこれに基づく施策の方針に沿って、事業用地及びその代替用地の先行取得を初めとして公有地の円滑な確保を図る必要があるため、土地開発基金に積み立てる経費について普通交付税に算入するとするもので、この趣旨に沿って積み立てるものでございます。

次に、今後の資金の活用でございますが、今回富士ディーゼルの土地の代替取得について千葉県地方土地開発公社に委託いたしました。同公社に委託した場合に、取得費の8%相当額を預託することになります。したがって、公共下水道終末処理場用地及び本年度代替取得を委託いたしますウエルネス事業用地に係る預託金を土地開発基金をもって充てるほか、西口地区土地区画整理事業、都市計画道路川名大賀線、下水路、道路等の用地並びにこれらの代替地等の取得のため活用してまいりたいと考えております。基金の機動的、弾力的な運用を図るため、資金の回転率をなるべく高め、基金の目的に的確に対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） まず、市長交際費の関係ですけれども、最初に質問したけれども、御答弁いただかなかった問題がございますので、再質問の中で改めて質問しておきますけれども、大村良太君のお見舞いというようなことで、これは絶対あってはならないことで、やむを得ない支出だということは大変よくわかります。また、市長さんが新しくなられたということで、住民の方々からいろんな集会への出席の御要求があって、また市長さんも小まめにそうした中へ出ていく、これがまた明るい行政という市長さんの掲げられた選挙の際の趣旨とも関連があらうかと思っておりますので、その点についての理解はいたします。

しかしながら、今度の補正はあくまでも臨時的な支出という性格がかなり

強いというふうに今の御答弁だと理解をいたしますので、そうすると経常的にやっております — 当初予算の中では例年どおり、こういう考え方で新年も臨むのかという点、その辺のお考えをいただきたいことと、それから私もこれまで従来何度となく半澤市長さんの時代に議論もしてきた問題の一つということで、最近はどうなっているのかなと思うんですが、この市長交際費については地方交付税の基準財政需要額の中では何万円と、こういうことで算定をされておるのか。いわば — 国の基準と言うとちょっと言葉はきついかと思いますけれども、国の地方交付税算定基準の中では市長交際費は幾らになっておるのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、広域市町村圏のごみの関係であります。まず第1点は、今回 1,178万円という、こういう負担が出てきた算出の基礎がわかりましたけれども、これは新年度の中では、通年という中ではどれくらいの規模でなる — こういう急変した状況の中であるものですから、さっき私は3カ月間の負担ということからすると、ざっと年間にすると 5,000万ぐらいになるんじゃないかという大ざっぱな話をいたしましたけれども、今のお話ですとどうもそうとも言えないようなんですけれども、あるいはもっと多くなるのかなという危惧も感じるんです。今までは、年度の前半ではとにかく引き取ってくれていたんですが、今度は引き取らなくなったからということですから、年間通すと 5,000万以上になるのかなという心配もするんですけれども、このまんまの状況が通年で続くんだといたしますと、市の財政負担としてはどのくらいの規模になろうとするものなのか。これは全くの持ち出しで、地方交付税の中でも全く国も措置されていないものだろうと思いますので、もう全額丸々市の持ち出しになる金額だろうと思いますので、大変重大な問題だと思いますので、その辺の数字をお示しをいただきたい。

それと、今後の問題ということで、リサイクル法の中で電炉メーカーなりこうした製鉄関係の業界が引き取り義務を持つということで価格を安定化させていくという、そういうことが義務づけできないかというような市長さんからのお話がありましたけれども、これはきょうの赤旗新聞で、昨日国会で参議院の商工委員会で我が党の市川正一議員が鉄スクラップ価格の暴落によ

る引き取り抑制問題を取り上げて質問をしているんですが、この中通産省は、日本鉄源協会が電気炉、高炉、回収業者などで懇話会をつくり、鉄くずの引き取りをふやすことを決めたので、これについて通産省としてもその内容を支持していきたい。そしてまた、我が党の市川議員は、これは当面のとりあえずの手段ということになりますけども、抜本的には高炉メーカーが社会的な責任を果たすということで、ごみの引き取り義務を明示していく、このリサイクル法に基づく特定業種に指定をしていくことが大事だ、こういう点で主張したということが報道されているわけであります。

それで、私は——国会でも我が党も問題にしていますけれども、これは全国の地方自治体で深刻な問題にもうなっているのではないかなと思います。通産省の動きとしては異例に早いんじゃないかなという感じを持ちますけれども、しかしまだまだこの業界——通産省というのはどうしても業界——大きな業界の鉄鋼業ですとか自動車産業ですとか、そういうところの意向が非常に反映しやすいお役所ですから、また押し戻されて骨抜きにされかねないというのも心配なわけです。ですから、いろいろな機会を通じながら、これは市長さんも担当の方もそれぞれ国や県なりいろいろな場を通じて、こうした鉄鋼業界なり、こういうところに引き取りを義務づける特定業種にしていくな、こういう世論を大いに高めて——地方自治体から高めていくというのは大変重要だと思うんです。その辺についてお考えがどうかという点です。

それから、繰出金の土地開発基金の問題であります。おおむね了解をしてわかりましたけれども、私はちょっと——この問題に関連するんですが、最近——夏ごろからですけども、大蔵省が地方交付税の配分率を引き下げる、地方への配分率を引き下げるという、こうした動きが表面化して、地方交付税の引き下げということで大きな問題になってきております。私はこれはとんでもないことだ。この地方交付税はあくまでも国の財源から地方に配分をしてくれるというような性格のものじゃなくて、もともと全国の地方自治体の共通の財源で、国はその配分について管理するにすぎないんだ。この率を下げるなどというのは人の財布に手を突っ込んで取ってしまうという話ですから、とんでもない話だと思うんです。この12月の県議会では、この

地方交付税の削減に反対するというような、そうした趣旨の意見書を決議したということが報道もされて承知しておりますけれども、当然のことだと思います。地方団体などではこうしたことについて反対ということで、決起大会なども行われているというふうに聞いておりますが、市長さん自身のお考えをこの場でお聞かせをいただきたいと思います、この問題については。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 神田議員の御質問にお答えいたします。

まず、市長交際費の関係でございますけれども、ただいま市長の方から説明いたしました、臨時的支出に加えて各種団体行事、諸会議等への出席がふえておりますので、来年度予算においても増額しなければ難しいかと考えております。

それから、交付税上の数字ということでございますけれども、10万都市で200万程度の数字が上がっているかと思っておりますけれども、これは全然各市の状況に反映していない数字だと考えております。

それから、次に広域市町村圏の負担金の関係でございますけれども、来年度についてはどうだということでございますが、来年度予算を編成中でございまして、数字としてはわかってはおりませんけれども、3カ月の数字が700何万という数字でございますので、それを単純に4倍すると3,000万程度というふうに考えておりますけれども、あくまでこれはまだ予算の調整中でございますので、また広域圏のものでございますので、具体的な数字ではございません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいまの2点目の今後の問題について世論を高める必要があるのではないかという御質問につきましてでございますが、県でもこれについて緊急な調査をしてございます。今月の9日までに出せということで、鉄くず価格の暴落による逆有償問題への対応についてということで照会が参っております。この結果はまだ出ておりませんけれども、これは全国的な問題ではないかなという、この調査はそういうことで考えており

ますが、国の厚生省のサイドでも、鉄くずの有料化で市町村が抱えるようになった問題について、全国からサンプル市町村を選び実態を調べる。具体的な調査内容はまだ固まっていないが、1つ、有料化されていた場合の再生利用への影響、2、その対応策、3、今後の見通しなどを聞く予定。この調査をもとに、よい対応策があれば困っている市町村に紹介するなど、適切な対策を考えるということを厚生省で言っております。そういうことで、ただいま議員さんからお話がありました通産省の関係もありますし、国レベルでも力を入れて考えているようでございます。市といたしましても、先ほど市長の答弁にありましたとおり、国、県へ積極的に働きかけていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御意見の中にございました地方交付税の問題でございます。

平成4年度の地方交付税の減額問題が大蔵省から提案されたとかいう報道が流れておりまして、これがあってはならんということで、しかも額が何兆円ということで、地方交付税は地方公共団体の固有の財源として地方自治の根源をなすものだ。この重要な一般財源を確保しなきゃいけないということで、過日緊急全国市長会の総決起大会がありまして、大蔵、自治の両大臣、そのほかの方々をお願いして、絶対に減額があってはならぬ。地方の時代と言いながら、地方行政を推進していかなくちゃいけないのに地方行政の停滞があってはならんということで、強力に決議し、陳情してきたところでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 市長さんを先頭にしながら、私どももこの地方交付税の減額あってはならぬことだということで、運動を強めていかなくちゃならぬなということで、ともに頑張らなくちゃならぬというふうに思います。

そこで、リサイクルの関係なんですけども、私はこのリサイクルの問題で、どうもそれが崩れてしまってきている中で、どうもやはりポイントは、企業

責任、事業者責任というこのリサイクル法、新しい考え方をしっかり確立するかどうか、そこが試されている。これが骨抜きになっちゃったら、結局この法律というのは形はつくりましたという言いわけにすぎないものになってしまうという点ではその値打ちが問われるという、そういうところにあるんだろうと思います。

そこで、この事業者責任という考え方の中で、私はもう時代はもうかればいい、こういう企業倫理というものはみんな認めないんだ、こういう世論をつくり上げることだと思うんです。ちょうど証券不正問題で補てんを受けた企業、どんなに汚い手だてを使ってでも金もうけすればいいんだということはもう時代は認めないんだということを示したのがあの証券不正事件だ。同じ自動車だって、トヨタはどこにでも名前が出てきたけども、本田技研はとうとう名前が出てこなかったということで、企業としての評価を高めたんです。今この環境に対してどういう姿勢を企業がとるのか。環境に優しい姿勢をとるのか。もうかればいいんだ、環境のことなど二の次、三の次で、そういうことで企業が企業の理念の根本にしているのか、環境を大事にするということを経営の理念にするのか、それによって今後の企業活動そのものが変わってくるという、それぐらいの大きな変化の世論というものをつくっていくということが今この問題解決していく非常に重要なポイントだ。

確かに局面としては、通産省、厚生省の中のつばぜり合いの中で、特定業種に指定をするかどうかというところに焦点はあります。しかし、それを支えるのはやはり国民の中で企業責任というのは何なのかという問題、企業の存立というのはいくなんのかといういわば非常に根本的な理念をめぐる問題がそこでは問われているんだ。そういう点で、館山市政の中でも企業という問題、その存立という問題を見る場合に、そうした視点というものをいろいろな行政の分野の中で光らせていかなきゃならない。

本当のことを言って — 端的なことを言っちゃいますけども、余り環境に対していいかげんな態度をとる企業だとか、こういう企業については市としては協力しない。そういう業者との取引はやめるだとか、そういうことを全国の市町村が大きな運動にしていって、声にしていってというぐらいのことをや

はり腹としては考えていかなきゃいけない問題じゃないかなと思うんです。それくらい大事な問題だと思うんですけれども、ここに出てきている問題は今廃棄物のという限られた問題でありますけど、ここの根にある問題というのは大変社会的に大きな、深い資本主義の企業理念そのものを問う問題がここでは語られているんだと思うんです。そういう点で少し先走った面もあるかと思いますが、私はそこまで重大な問題じゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） このリサイクル法が7省庁の合同でできました。普通は政令、省令をつくる場合にそれぞれの目的とか、そういうのがあるわけですけど、これはそうではなくて、7つの省庁が一緒になりましたんで、基本方針という形で出てきてございます、いわゆる各論が。全く新しく今までになかったような形での法律が出てきたわけでございます。それはなぜかといいますと、やはり今までの産業界といいますか、そういうものがやはり地球規模の環境の問題、リサイクルの問題、これを避けて通れなくなってきた。やはり今までの軌道修正を迫られてきたものというふうに考えているわけでございます。ですから、この法律をどういうふうに生かしていくか。やはり国民がある程度監視しながら、国民のまた義務、そういうものを持ちながらこのリサイクル法を見守っていきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 時間も大分経過しておりますので、簡明にいたしたいと思います。

最初に、歳出の総務費、10目コミュニティ費について御質問いたします。補足説明の方の17ページでございます。ここにコミュニティ集会等施設整備補助金ということで、三軒町連合会館の建てかえ計画の中止による減ということでございますけれども、県の支出金もつき、予算化されてこの事業が中止に至ったということでございますから、補助金までついたものがどう



いう事情で、どこで中止が決定されたのか。これは大変なことだと思いますので、この点についてまずお伺いいたしたいと思います。

2番目に同じく17ページの衛生費、ただいま質問もありました粗大ごみのことでございますけど、私が通告いたしました売却予算、さらには取引手数料の問題等につきまして、さらには今後の実績見通しについてはただいま質疑がされましたので省略いたしますけれども、1点だけ補足的に質問いたしたいと思います。

ただいまの質問の中でもって、収入の減が830万円あったということについては、これは私はやむを得ないというふうに思いますが、支出の780万円ということでございますけども、これは平成3年から—平成4年1月以降3カ月間の予算になるわけでございますけれども、これはまだ—年度これから入るわけですが、見込みとしてこれだけどうしても出るということなのか。これを合わせると1,600万ほどになるわけでございますから、館山市もそのうち1,175万円を分担しなきゃならないということですが、これを少しでも削減するのに—私は実態をよく知らないんですが、この鉄くずはどうしても取引業者に引き取ってもらわなければならないのか。館山市の地域的な場所その他から、これ引き取ってもらわなければ支出しなくて済むわけでございますから、そういう弾力的な調整等はできないものかどうか。そうすれば、780万円というのは少なくとも今年度内はおさまるわけございまして、これを—これからまだ—来年にかかるわけですから、その分を見越して780万円ということを経上しなくてもいいんじゃないかというふうに思われるんですが、その点を含めてストックなり、そういう方法等、取引しなくて何か済む方法あるのかないのか。それから、780万の引き取ってもらうというこの金額の算出はどういうことで—これからの問題ですから、どういうふうにして算出されたのか、それがどうしてそれだけ必要になるのか、この点についてひとつ補足説明をいただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの辻田議員の質問にお答えいたします。

議案第50号、一般会計補正予算中、歳出の総務費、10目コミュニティ費についての御質問でございますが、三軒町連合会館が建築後30年を経過し、老朽化が著しいため、地元町内会で平成3年度建てかえを計画いたしました。その計画に基づき補助要望がございましたので、千葉県コミュニティ育成事業補助金の補助要望をするとともに、本年度予算化をいたしたところでございます。本年度に入りまして連合町内会長から地元の資金繰りがつかないとの理由で建てかえを中止する旨の申し出がありまして、予算の減額を行うものでございます。

次の清掃費、清掃総務費についての御質問でございますが、安房郡市広域市町村圏事務組合の粗大ごみ処理事業についての負担金につき、館山市分として負担金1,178万円を補正しようとするものでございまして、神田議員の御質問にお答えしたとおりでございます。

なお、有価物売上代の昨年度実績は1,263万円、平成3年度見込みとして357万円、平成4年度の見通しといたしましては、鉄類については引き続き逆有償となるのは確実でございまして、アルミにつきましても売却価格が大幅に下落する見込みであると同っております。

鉄スクラップの処分について、ストックをしておけないかという御質問でございますが、安房郡市広域市町村圏事務組合としてはストックしておく土地及び施設がないため、従来どおり業者に引き取ってもらう予定でございます。

以上でございます。

◎議長(福原 勤君) 辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) このコミュニティの補助金が地元の資金繰りができないので中止をしたということ、これは全然問題ございませんですけども、しかしながら予算に計上して、県の支出金まで計上したものが、地元の申請があって、地元がだめになったからだめになってしまいました、それで予算を更正してもらいたいということは、私はちょっと軽率過ぎるんじゃない

いかと思います。やはり補助金を県に申請をするという、そしてそれを予算化するという手続の中では、当然館山の市役所は優秀でございますから、その事業が本当に実現できる見通しがついたかつかないかを確かめてから予算化すべきで、こういう形の予算化がされていくとなると、もうほとんど信用できなくなります、私たちにしても、議員としても。それは地元で申請して地元でだめになったから、それだけのことです。これ一般の話です。その中でもって予算を審議して、県にその申請をして、ある程度の合意を得てまできたものをちょんにするということですから、これは大変なことが出てくると思います。

1つは、そういう面でもって、議会が市のそういうことについて絶対的に信用しているということについて信用できなくなります、今後は。できるのかできないのか調査しなければ——予算の承認の段階が出てきますので、こういうことはあってはならないというふうに私は思います。

もう一つは、県の方の予算や何かの形でもって中止になった場合、補助金がないという場合には、館山市はその見返りとしてほかに予算をくれということでもって県に対して優位に立てます。しかしながら、館山市が館山市の事情でもって県の予算が要らなくなりましたということになりますと、県も予算の不用額として処理しなきゃいけないものですから、館山の言うてくることは何言っているかわけわかんない、もうこれからは考えなきゃいけないということでもって、館山は非常に不利になる。

これは一つのケースだけじゃなくて、小さなことだけど、館山市は補助金支出を予算に組んである。それがしかしながらそっちの事情でもってペアになった。行政というものはどこでも組んだ予算が執行されないで不用額出すことについてはその担当者非常に責任感があるので、よくても悪くても全額使おうということでもって必死になるのは当たり前なんです。県のメンツだと思っています。予算ペアになっちゃった、地元の意向だ、それは通じはしないです。そのしっぺ返しを食うということも私はあり得るというふうに思うんですけど、一般的に考えて、そういう点をどう考えておるのか。これはきちんとしてもらわないと——これは小さいことであるかもわかりません

けども、私は重要だと思います。その点についてひとつ御所見をお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、この三軒町連合会館の建てかえの計画の経緯と申しますか、それからちょっと説明をさせていただきたいと思いますが、平成元年の10月の13日に北条地区の市長を囲む懇談会の席で三軒町連合町内会長さんから建てかえに際しての補助要望がありました。コミュニティ事業補助金の制度を説明しました。それから、平成2年5月の25日に行政事務委託会議——これ市が行うわけでございますけれども、この席上でも島田連合会長さんから再度要望があったわけでございます。それで、平成2年の9月の12日に正式に要望書が参りました。9月12日付でございますけれども、この要望書に基づきまして私の方で決定したわけでございます。この中には設計書とか、それから地元負担金の調達方法、そういうものがついているわけでございます。そういうことで、私どもとしてはこれが——確かにこの計画がなされるというふうに信じまして実施したわけでございます。その後、資金繰りが立たないというようなことが出てまいりましたんで、やむを得ず今回の措置になったわけでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 今のことを聞いていれば、それでもってだめになるという理由の一つもないです。それでもって結論はだめということですから、そういう手順を踏んできて。だけれども、予算組むときには、やっぱり資金繰りがつかないということだったら、資金繰りの裏づけぐらい見て——それ以上調べろと言うかもわかんないけども、何でそれだけのものが——そこでそう言うけど、私ら納得できないです。2回にわたる集会なりそういう中でもってやって、計画書まで出てきたものが、それが後になって資金繰りありませんなんかということは、これはペテンもいいとこでもって、そんなことを信用するというか、これは話としては、答弁としてはそうなるかわかんないけど、現実的にそんなことでもって踊らされるような市なり当局者では

話にならないです。そういう説明じゃ我々としてはこれはもう何とも言いようがないんで、その点はひとつ慎重を期してもらいたい。これ以上言ったら——その段取りとってきてだめだと言うんですから、その段取りをとっていればだめになるわけじゃないですか、その予算が。それはいいかげんになりますから、その点は私はもうそういう答弁で了解しますけども、時間がないので、以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 皆さんお疲れでしょうけど、少し時間をいただきます。議案の第50号、一般会計補正予算（第5号）について御質問を申し上げます。

議案の13ページをお開きください。13ページ、児童福祉費の保育所費、この中に委託料 110万円が計上されております。この件に関して御質問を申し上げます。説明資料によりますと、純真保育園に発生したシロアリの駆除を委託するとされているわけですが、純真保育園は建築後22年近く経過をしていると聞いておりますが、このシロアリ発生はどこにどういう状況で発生したものか、また発生をした原因と思われるものがおわかりでございましたら御説明をいただきたいと思います。

次に、議案の16ページでございます。幼稚園費、この中の工事請負費に 500万円が計上されております。この件についての御質問を申し上げます。説明資料によりますと、九重幼稚園園舎改修工事請負費となっておりますが、この九重幼稚園は市内で唯一1年保育を行っていた保育園だと認識をしておりますが、来春より2年保育となるための改修費であるというふうに思いますが、保育室、玄関等どのように改修をされるものなのでしょうか、お伺いをします。また、倉庫増築、プロパン庫移転も同様の理由により工事を行うものなのか、また具体的な工事の内容等もあわせて御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

第1の純真保育園シロアリ駆除委託料についての御質問でございますが、保育園の施設管理につきましては、各園とも毎月定期的に点検を実施し、安全管理に努めております。今回純真保育園園庭にシロアリが発生したため診断を受けたところ、管理棟床下にアリ道が発見されましたので、早急に駆除しようとするものでございます。

御質問の第2、幼稚園の工事請負費につきましては教育長より答弁させていただきます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

教育費、16ページ、工事請負費の件でございますけれども、御指摘のとおり来年度から4歳児のクラスを設置したい。そのための改築でございます。

工事の内容につきましては、プレイルーム49平方メートルを改造いたしまして保育室に変えたい。また、そのプレイルームにありました遊具等をおさめるための園舎に接続した倉庫を新しくつくりたい。それから、園児用昇降口を兼ねております玄関と称しております場所がございますが、その玄関を広くして靴入れ等をつくりたい。また、その園舎に関連してありましたプロパン庫を他の方に移したい。これだけの工事でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） きのう実は純真保育園さんの方にちょっと現場を見せていただきに行ってきたんですが、房南保育園でやはり以前にシロアリが出たということをお聞きしまして、ほかの園はどうなっているんだろうなということの一つ思いました。私たちは普通シロアリといいますと木造住宅に

出るものと思っています。私も実は思っていたのですが、最近鉄筋のコンクリートの建物にも白アリがわくということを聞きまして、この近所の合同庁舎にもシロアリがわいて大変な騒ぎになったということを聞きましたが、そういうことを考えますと、この管理の方ですが、定期的にやっているということをおっしゃいましたが、どのような間隔でどういうふうにやっていらっしゃるのかを具体的にお聞きをします。それが1つ。

それと、この園舎は22年近くたっていて――確かに建物は22年たっているなというふうには見えません。非常にしっかりした建物で、整備もきちんとされています。いろんな修理等を何回もやってきたんではないかと思いますが、これは9月議会でもちょっと質問の中にありましたけど、市長の方も今後の状況を見ながら施設整備を検討するとおっしゃっていましたが、このシロアリ問題はたしかこの議会終了後に起こったことではないかと思うんですが、この状況変わりましたことについて、今後建てかえというようなお考えがこの中で出てきたのかどうか、それを1点伺います。

九重保育園の件ですが、本当に市内でも唯一1年保育をしていたところが今度2年保育になるということで、大変喜んでいらっしゃる方もいらっしゃるようですが、あそこは幼稚園と保育園が隣接をいたしておりまして、環境も非常によくて、いいところで、日当たりもいいなという印象を持っているんですが、これは大体了承をいたしました。

そういう幼稚園整備の問題について関連することなんですが、先日の私の質問の中のやりとりがありましたように、やっぱり整備上館山幼稚園の駐車場問題が出てきます。そして、先日も市の代替地であるという答弁ございましたけども、具体的にあの代替地は何に利用をしていくつもりなのか、現状で具体的な案がございましたらお尋ねをいたしておきます。

そして、教育委員会に対しても、教育長さんがほかの園で駐車に際し困っているというような声は聞いていないということでしたが、市内の幼稚園の通園方法、皆さんの通園方法は調査をされていると思いますが、いかがでしょうか。

以上、御質問申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、シロアリの定期的な点検ということでございますけれども、1カ月に1度定期的に職員が点検をしているということでございます。

それから、2つ目の建てかえの計画があるかということでございますけれども、現在ございません。現在ありますのは館野の保育園が計画にあるわけでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 九重幼稚園からの関連質問ということでございますが、現在の代替地の具体的な箇所ということですが、現在本市におきましての具体的な代替地はございませんけれども、今後予定されます西口地区土地地区画整理事業、あるいは都市計画道路川名大賀線、あるいは道路改良等の事業のほか、県から委託されております館山白浜線バイパスの用地取得の事務を進めております。また、将来その他の公共用地を取得するに当たっての地主からの代替地要求が来る場合があります。このような場合に代替地として提供するものでございますので、現在としては代替地としての要求はございません。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 幼稚園の通園方法につきましては基本的には園長が決めることになっておりまして、具体的に私たちがそれを調査したかどうかという御質問でございますが、具体的な調査はいたしておりません。しかしながら、大体多くの幼稚園がお母さんか、あるいはおじいさんでしょうか、そういう関係の方が自動車で送ってくるようでございます。ただし、北条幼稚園だけは車による通園は禁じられております。しかし、幾ら禁じてもそれに保護者が従わないというのが現状だということでございます。

また、先日質問ございました九重幼稚園に何か混乱しているという話があるじゃないかということで、きのう九重幼稚園の教頭に会いましてよく聞きましたならば、地区の方々と十分了解をとっておりまして、そういうことは



ないということでございます。

館山幼稚園の問題につきまして、まだ現在利用いたしております駐車場は市の財産でございますが、いまだその市の財産を売却するという話は私たちも聞いておりませんので、具体的にはまだ検討していないんじゃないかと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 定期的に1カ月に1度ということは、職員の方というのは市の職員の方という認識でよろしいのですか、伺います。

それと、代替地が幾つか案が出ていたようですが、もしこれ将来的に代替地として使用される場合、市は責任を持って駐車場を、きちんとした駐車場を用意できるかどうかお答えをいただきたいと思います。

それと、多くの幼稚園の状況を具体的に調査をしていないということですが、園長さんの方で入園なさるときに調査がございます。その調査で多分園長さんの方は把握をしていらっしゃるんだろと思いますが、ちょっといろんなところの幼稚園の方——幼稚園に限ってなんです、伺いましてちょっと気になることは、今ちょっと教育長さんの方のお話でわかったんですが、北条幼稚園は車ではなるべくということをお願いしているということなんだろうと思うんです。北条幼稚園の通園の方で自転車通園の方が非常に多いというふうな認識をしております。その中で、お子さんを前と後ろに乗せて走っていらっしゃるという方よく見かけるんですが、自転車通園については教育委員会の方で、園の方ではそれを勧めているというようなことなのかどうかを伺います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市の職員で定期的に点検を行っています。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 北条幼稚園の通園につきましては車両等を一切禁止しているということでございますが、それに従わないというのが現状だそうでございます。でありますから、自転車通園を教育委員会が認めるという

ことは絶対ありません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） 先ほど辻田議員から三軒町の連合会館についての質疑があったわけですが、私はそれに追加して質疑をするということじゃなくて、その御答弁の中に——いわゆる民生部長が答えたことが非常に適切であったと思うんですけれども、なお私の隣の地元でございまして、その間の事情を知っておりますので、私は——辻田議員がこういうことがあっては館山市が県に対して信用を失墜するということでございます。確かにそうであるかもしれません。それで、そういうようなことが生じたいきさつについて私の知っている範囲で——これは質疑じゃなく答弁のような形になっちゃいますけれども、ちょっと……

◎議長（福原 勤君） 暫時休憩いたします。

午後零時04分 休憩

午後零時04分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に続きまして会議を開きます。

御質疑ありませんか。

秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 1つ質問させていただきたいと思います。

予算書の6ページをお開きいただきたいと思います、第2表の地方債の補正でございます。この中に土木施設の災害復旧事業ということで、河川が5ですか、道路が2カ所の災害復旧ということで、1,820万の補正がされていきますが、この金利が年利9.0%以内ということなんですが、これは現実には幾つで借りているんでしょうか、教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 収入役。

◎収入役（渡辺 弘君） お答えいたします。

この地方債補正の利率の年利9%以内という言葉でございますが、現実には——はっきりした資料を持ってなくて確定値は申し上げられませんが、6%ちょっとだと思います。しかし、御案内のように地方債の場合には最低10年から25年という非常に長い償還期間があるわけございまして、年利が仮にこの補正予算でお願いいたします利率よりも上がった場合に地方債の補正の補正を再度お願いをいたさなければならない、そのようなことがございますので、予想し得る最高限度の年率をお願いいたしまして、その以内ということをお願いしておるわけでございます。現実にはこの9%という利率ではございません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 私これさっと見たところ9と書いてありましたんで、普通銀行金利にしても今ちょっと下がって、公定歩合も下がっておりますんで、それ以下で借りられるんじゃないかな、ましてこういう災害復旧事業ということはいつもあることじゃないんで、国からの補助金とか利子補給とか、そういうものの安い低利のお金が使えんじゃないかなということで伺いましたけども、これより安い金利で借りられるものはないんでしょうか、伺います。

◎議長（福原 勤君） 収入役。

◎収入役（渡辺 弘君） この土木施設災害復旧事業の起債の対象となる機関でございますが、これは資金運用部資金でございまして、当然長期プライムレートより非常に低い金額で設定されるのが通例でございます。先ほど6%ちょっとということを申し上げましたが、確定利率は現在のところ6.0%でございます。したがって、この資金運用部資金の利率が市町村が借り得る一番低い利率ではないか。当然このほか銀行縁故資金ですとか市町村共済組合資金ですとかその他の資金があるわけでございますが、いずれもこの資金運用部資金——いわゆる政府資金よりも高率に設定されております。

以上でございます。

◎1番（秋山光章君） はい、わかりました。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ございませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第50号乃至議案第53号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 請願書の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、請願第5号及び請願第6号の各請願を一括して議題といたします。

#### 委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各請願は、ともに12月11日の議会運営委員会開催までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

12月11日議会運営委員会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり所管の常任委員会に送付いたしましたので、御報告いたします。

#### 延 会 午後零時10分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明19日から23日まで委員会での議案審査のため休会、次会は12月24日午前10時開会といたします。その議事は、議案第46号乃至議案第53号等に係る委員会での審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは12月24日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第46号乃至議案第53号

1 請願第5号、請願第6号

